

浜通りへの帰還・新工場建設への支援

(あぶくま信用金庫)

【概要】

東京電力福島第一原子力発電所事故により、一時的に他県での操業を余儀なくされていた被災取引先に対し、補助金等を活用の上、他金融機関と連携して、新工場建設に係る支援を行った事例。

背景と経緯

あぶくま信用金庫の取引先であるW社（電気機械器具製造業）は、福島第一原発の20Km圏内である南相馬市小高区で、産業用工作機械部品を製造していたが、原発事故により、休業を余儀なくされ、千葉県東金市に移転し、取引先企業が所有する工場の一部を間借りして操業をしていた。

同社は、間借りした工場が手狭で受注増に対応できないこと、小高区では雇用の面で、人員確保ができないこと等から、南相馬市原町区に新工場を建設することを計画し、当金庫に相談があった。

当金庫は、本計画における新工場の規模や5名程度の新規雇用創出が見込まれること等を勘案すると補助金等が活用でき、被災取引先の負担が軽減できることに加え、大口取引先からの受注増加が決まっていること、工場が手狭なため受注を断っていた新規先からの受注が見込めること等から、設備投資の効果は大きく、被災地の復旧・復興にも貢献できると判断し、新工場建設に係る支援に取り組むこととした。

具体的な取組

当金庫は、同社の新工場建設に向けて、南相馬市下大田工業用地および補助金等の活用を提案し、「業務連携・協力に関する覚書」を締結している日本政策金融公庫と連携して、以下の支援を実施した。

- ① 「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」の補助金活用提案および申請手続き等のサポート
- ② 「南相馬市企業立地助成制度」の補助金活用提案及び申請手続き等のサポート
- ③ 「日本政策金融公庫」と連携した協調融資の利用提案及び実行

取組の成果

同社は、平成27年4月から新工場での操業を再開している。

同社では、受注増加に必要な生産体制が整ったことに加え、熟練を必要とする手作業が主となる産業用工作機械部品を製造しており、他では替えが利かない技術を擁していることから、予定していた大口取引先からの受注増加に加え、新規先からの受注獲得により、業績は順調に回復している。



写真1 工場の全景



写真2 工場内の様子

今後の課題

今後の課題は、新工場建設により、余裕が出た生産能力をフル活用するのに必要な受注を確保するため、販路拡大に取り組んでいくことである。

当金庫では、同社に対して、信用金庫業界のネットワークを活用したビジネスフェアである東北地区信用金庫協会主催「ビジネスマッチ東北2015」および城南信用金庫主催「よい仕事おこしフェア2015」を案内し、同ビジネスフェア出展に係る支援を実施する等、販路拡大に向けたサポートを行っている。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① 補助金の活用提案および申請サポート

支援実施のポイント② 外部機関等を活用した資金調達の支援

支援実施のポイント③ 業界ネットワークを活用した販路拡大の支援